

(始良郡栗野町大字木場字外堀)

位置と環境

栗野町の中心部から東に約 1 km 離れた栗野岳の裾野にあたる、標高約 270m の台地上に立地している。台地の広がりには 50ha にも及び、同じ台地上に木場 A-2 遺跡、木場 B 遺跡が所在する。

調査の経緯

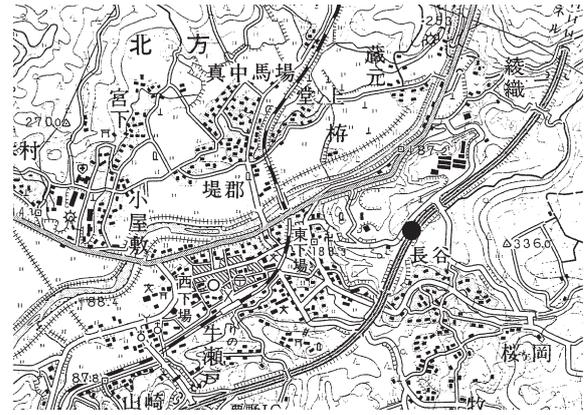
九州自動車道の建設に伴って県教育委員会が昭和 54 年と 55 年に木場 A 遺跡を含む 3 遺跡の一部について本調査を実施した。

その後、九州自動車道に隣接する農道の整備が計画されたことに伴い、栗野町教育委員会が調査主体となり、県教育委員会の協力を得て、昭和 63 年に確認調査、平成 5 年に約 530m² を対象に本調査を実施した。

遺構と遺物

昭和 54 年と 55 年の調査では、旧石器時代ナイフ形石器文化期・細石刃文化期、縄文時代早期・前期、中世の遺物や遺構が発見された。旧石器時代ではナイフ形石器 2 点のほか、スクレイパー、石核、剥片などが出土し、同時期の遺構として礫群 4 基が発見された。縄文時代早期の遺物としては、前平式・石坂式・塞ノ神 A 式等の土器、石鏃・石匙・抉入石器・磨石・石皿等の石器が出土した。土器は小片が多く、完形に復元できるものはなかった。

平成 5 年の調査では、アカホヤ火山灰層の下から縄文時代早期の遺物と遺構が発見された。また、薩摩火山灰層の下からは少量の旧石器時代細石刃文化



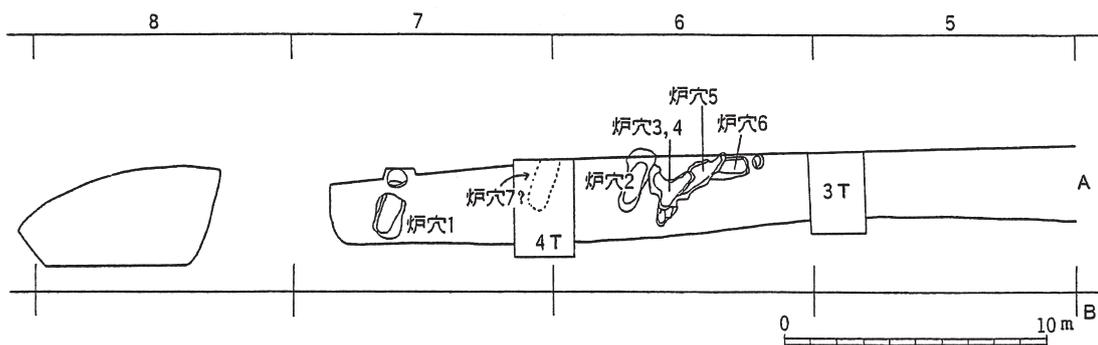
第 1 図 木場 A 遺跡の位置

期の遺物が出土した。

縄文時代早期の遺構としては、集石 1 基、連穴土坑 6 基が発見された (第 2 図)。単独で発見された 1 号 (第 3 図) は、トンネル部分のブリッジが崩落せずに残存しており、連穴土坑の形態が理解できる資料である。トンネルから小さい土坑にかけての床面には焼土ブロックを含んだ土が堆積し、大きい土坑の床面には焼土粒子と炭化物粒子を含んだ土が堆積していた。このような土の堆積状況から、大きい土坑側のトンネル入口部分で火を焼き、溜まった灰などを大きい土坑側に掻き出して使用していたことが想定できる。

2 号から 6 号は重なりあった状態で発見された。繰り返し使用された連穴土坑はトンネル部分のブリッジが崩落し、その機能を果たせなくなる。その場合は前方に新たな小さい土坑を掘り、トンネルで繋ぐことによって新たな連穴土坑を構築するという効率的な方法がとられていたことが判明した。

縄文時代早期の土器としては、前平式 (第 4 図 1



第 2 図 連穴土坑の配置図

～4), 石坂式(第4図5・6)等の円筒形貝殻文土器と塞ノ神式土器(第4図7・8)が出土した。

縄文時代早期の石器としては, 石鏃(第5図9～17), 柳葉形尖頭器(=石槍, 第5図18), スクレイパー(第5図19・20), 磨石, 石皿などが出土した。柳葉形尖頭器は円筒形貝殻文土器に伴うものだと考えられ, 南九州では珍しい資料である。

特徴

前平式土器の時期の連穴土坑が, 重なり合った状態で発見されたのは本県では初めての例である。

資料の所在

出土遺物は, 栗野町教育委員会に保管されている。

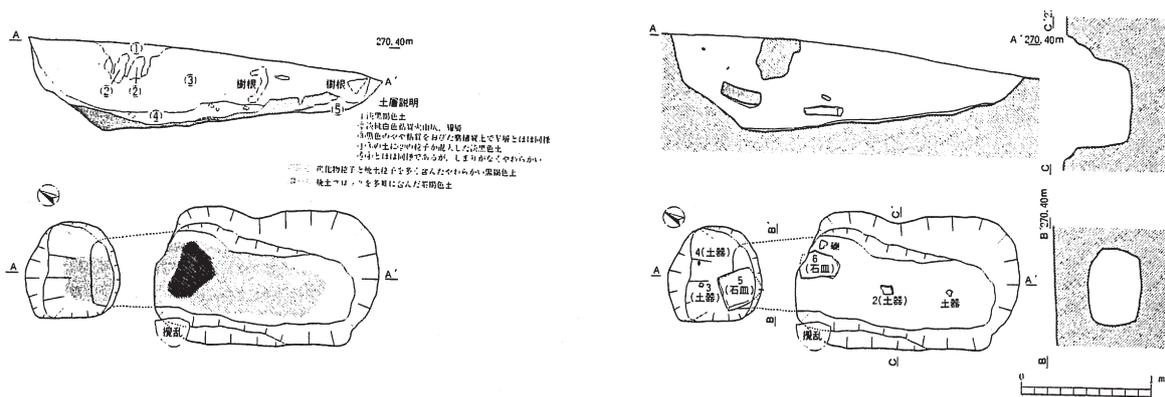
参考文献

鹿児島県教育委員会1982「木場A・木場A-2・木場B・堀ノ内遺跡」『鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書』(21)

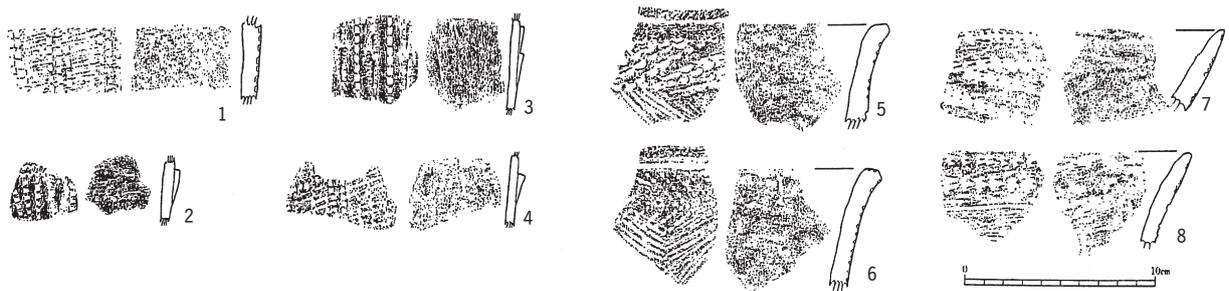
栗野町教育委員会1989「木場A遺跡」『栗野町埋蔵文化財発掘調査報告書』(1)

栗野町教育委員会1994「木場A遺跡2」『栗野町埋蔵文化財発掘調査報告書』(2)

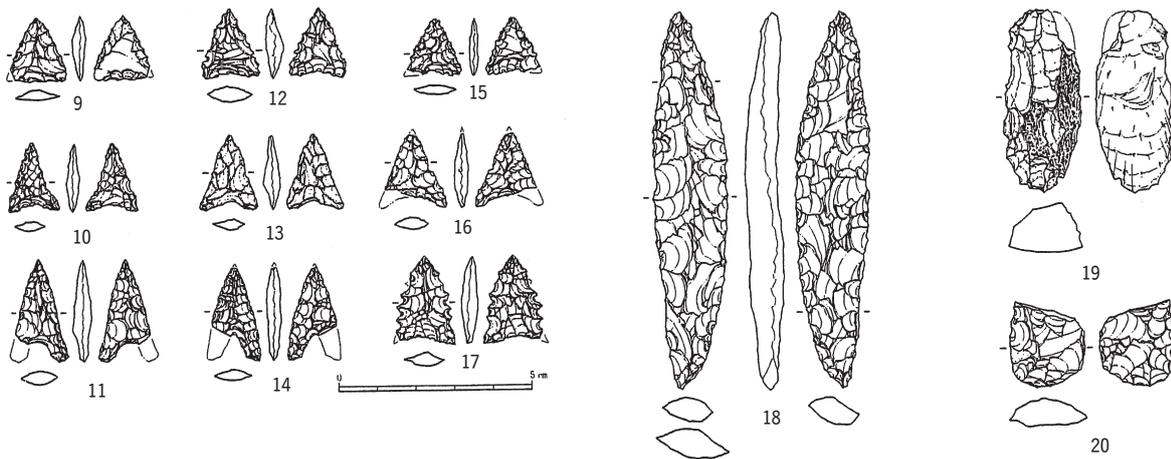
(児玉健一郎)



第3図 1号連穴土坑



第4図 縄文時代早期の土器



第5図 縄文時代早期の石器